

専門基礎教育科目・専門教育科目の授業概要

【専門基礎教育科目】

科目区分	授業科目名	授業の内容	
専門基礎教育科目	人間の理解	解剖生理学	健康な人体の構造、人体を構成する臓器の位置・形態を一連の機能系統別に学習し、看護の対象の健康状態を系統的に把握するために必要な解剖学的知識を習得する。
		病態生理学 (含：病理学)	病態の理解や看護ケアの提供に必要な人体の各組織・器官の正常な機能と仕組みについて学習する。
		生化学	生命活動における生体中の生化学的機能と仕組みを学習し、病態の理解に必要な生化学的知識、生命活動、細胞外液の調節内環境の恒常性、ホメオスタシス、代謝、液性調整、非特異的生体防御機構、細胞などについて学ぶ。
		人間関係論	個人間、集団間及び個人と集団の相互作用の過程について扱う。特にグループ・ダイナミクス(集団力学)の知見に基づき、日常的な人間関係の内に潜む社会的影響や法則性について検討する。また、グループ・ワークを通して対人関係の諸課題を体験的に学習する。
		生涯発達論	人間の一生涯という全行程を発達のプロセスととらえ、生を受けてから生涯を終えるまでの間の身体・心理・社会的発達について、特に発達心理学の視点から理解する。発達段階の特徴、現代人の発達課題と危機などについて学習する。
		家族社会学 (含：ジェンダー論)	現代、家族のあり方が多様化しており、また介護問題をはじめ母親の育児不安や父親不在など、家族をめぐる問題が増加する一方で、解決がなされにくいという状況である。適切な介護を行うために、家族に関する基礎的理論を学ぶとともに、家族を社会システムの一つとしてとらえる視点を持つことで、家族問題解決のための手掛かりを探求する。
		精神保健	精神的健康の保持増進を目的に精神保健の概要、精神保健の意義と課題について学び、心の仕組みと発達、ストレス、危機状態の心の動きを理解する。
	健康の理解	健康相談活動の理論と方法	健康相談活動の基礎理論として、発達と健康、児童から青年期にかけて特徴的な心身疾患、身体症状と心の関係、心身の悩みや問題のケア、相談活動の記録法について講義する。
		病態治療学Ⅰ (内科系疾患)	臨床において比較的遭遇しやすい内科系疾患について、病態のメカニズム、臨床症状、予後・合併症、治療・検査等について系統的に学習し、看護実践に必要なキア(cure)とケア(care)を統合できる基礎的能力を習得する。
		病態治療学Ⅱ (外科系疾患)	外科系疾患に対する看護を展開するために必要な知識を習得する。疫学、病気の成り立ち(病態生理)、臨床症状、診断、外科的治療の方法、適応、合併症、予後について学習する。近年の診断や治療法は進歩をつづけ、新しい機器や手術術式が開発されており、これらの最新の知識も身につける。
		病態治療学Ⅲ (小児疾患)	小児の病態、診断、治療について学ぶ。看護を展開するために必要な症候と疾患、病態、診断、治療の概略を理解する。生活と発達の関連において健康から疾病に至る変化のプロセス、回復に向けて生活を調整するための生存・生活機能別疾患の特性などについて学習する。
		病態治療学Ⅳ (母性疾患)	母性の病態、診断、治療について学ぶ。看護を展開するために必要な症候と疾患、病態、診断、治療の概略を理解する。生活と発達の関連において健康から疾病に至る変化のプロセス、回復に向けて生活を調整するための生存・生活機能別疾患の特性などについて学習する。
		病態治療学Ⅴ (精神疾患)	精神的健康問題を抱えた人の看護を展開するために必要な疾患、病態、診断、治療の概略について学ぶ。

科目区分	授業科目名	授業の内容	
専門基礎教育科目	健康の理解	老年学	老年期の身体的、心理的、社会的変化に伴う疾病や障害について、病態、診断、治療などの医学的知識や、沖縄の長寿研究などの公衆衛生的知識を学ぶ。
		薬理学	この授業科目は、薬物治療における医師・薬剤師などとのチームワークのなかで看護職としての役割を果たすために習得すべき薬物療法の知識と日進月歩である薬物の生理学的効果ならびに作用機序について学習する。
		免疫学	この授業科目は、免疫学についての系統的な学習を指導する。①「免疫の基本的な仕組み」、②「免疫学的寛容と自己免疫疾患」、③「自然免疫と獲得免疫」、④「感染症と免疫」、⑤「移植と免疫」、⑥「ステロイドと免疫」、⑦「エイズや癌と免疫」、⑧「アレルギー疾患」などを解説し、学校現場に必要な⑨「個人的、集団的な感染防御における免疫学」、⑩「ストレスと免疫」、⑪「児童から青年期にかけて多い免疫系疾患（喘息、アトピーなど）」についても学習する。
	健康の理解	微生物学	人体と関係の深い微生物（細菌・ウイルス・真菌・寄生虫など）の種類、形態、構造などの基本事項に触れ、微生物と宿主との相互作用について概説し、感染予防や治療の知識・技能を修得できるように教授する。免疫学を含む。
		栄養学Ⅰ	健康と栄養、日常生活と栄養、食物と栄養、疾病と栄養について学習し、ライフステージを食品・栄養との関係を理解する。
		栄養学Ⅱ	栄養的要因が関与する疾病とその食事療法の基本的な内容を理解する。病院における栄養サポートチーム（NST）による栄養管理について学び、臨床栄養学の基本的な知識と役割について理解する。
	環境の理解	公衆衛生学	社会の組織的および個人的な努力を通じて疾病を予防し、健康を維持しつつ、寿命を全うするための具体的な健康増進を図るための学問を学ぶ。保健統計、人口動態・動態統計、生活習慣病・感染症の予防、保健行政、社会保障、保健・医療・福祉制度、公衆衛生関係法規などについて学ぶ。
		保健統計学	この科目は、日常社会で社会現象、自然現象、健康現象を統計学的なものに見かた、考え方、統計学の正しい利用と解釈について学習する。内容としては、調査データや実験データの統計処理ができ、要約、分析の学習を通して、卒業研究や看護実践に活用することができる。
		疫学	この科目は、人間集団に出現する健康関連のさまざまな事象の頻度・分布を調べ、それに影響を与える要因を明らかにすることを通して、健康関連の諸問題に対する有効な対策を立てるための学習をする。内容としては、疫学の概念・疾病頻度の指標、暴露効果の指標、疫学調査法、集団検診の原理と方法、感染症の疫学、主な疾患の疫学について理解する。
		保健福祉行政論	この科目は、保健医療福祉に対する政策、行政、財政の基礎的知識および地方公共団体の保健医療福祉行政施策を計画策定、実行、評価のサイクルにのせて実施するための基礎的な知識を学習する。内容としては、保健医療福祉行政・財政の理念と仕組み、保健医療福祉行政の分野と制度保健医療福祉の計画と評価、政策形成過程等に関する演習などを通して理解する。
		看護と福祉	最近の少子高齢社会、感染症から生活習慣病への疾病構造の変化に伴い、看護教育では在宅看護論が設定され、また介護保険制度が改正されるなど、看護と福祉の関連が従来に増して強くなることに対応して、看護活動と福祉との関係について基本的な理解を深める。
		学校保健	1. 児童生徒の健康状態と問題点、学校保健の歴史、学校保健組織活動、健康の評価、保健教育、健康相談、学校安全、学校保健の基礎理論を法律に基づいて学ぶ。

科目区分	授業科目名	授業の内容	
専門基礎教育科目	環境の理解	産業看護学	労働者の健康管理・健康の維持と増進を図るため、労働者の働く職場内環境の管理、作業管理、衛生教育ならびに変化の激しい職場における労働者の身体的・精神的変化に適切に看護、保健活動が展開できる必要な知識を習得する。
		保健医療と法	健康生活を支えるための保健医療制度に関する法規を理解し、対象者への援助や問題解決ができるよう、保健医療の概念、法規の概念、看護職者と法、保健師助産師看護師法、看護師等人材確保に関する法律、医療法など関連法規について学ぶ。
		医療英語	この授業科目は将来の多様な国際看護の場で必要とされる最低限の英語力の育成を主眼とする。基礎的読解力文章表現力音声的表現力判断力を育み国内外の職場で英語を使って仕事を遂行できるようにする。
		養護概説	養護の概念について歴史的・社会的な観点からとらえ直しながら、養護教諭の歴史的な変遷、現代に求められる役割、活動過程の在り方、養護の原理や機能に関する理解を深める。さらに、現代の学校教育に求められている養護教諭の多様な役割について学習する。
		保健行動論	この科目は、個人の健康課題に関連してとる人々の行動や心理的側面から、保健行動、病気適応過程などの一般的行動パターン、行動変容に影響する諸因子などに関する理論を学習する。 内容としては、健康間、健康認識、保健行動、ウェルネス行動、病気と人間行動、障害と人間行動、人間行動への援助基盤について理解する。

【専門教育科目】

科目区分	科目名	授業の内容	
専門教育科目	基礎看護	看護学概論	看護とは何か、看護の本質を改めて問い直しつつ、看護の専門性及び自立性について考察し、看護職のあるべき姿と将来の看護について学習する。内容としては、看護の歴史的変遷、看護の本質と機能、看護の科学性・芸術性と専門性、看護活動の場と看護システム、看護の継続性、将来の看護の方向性、看護の質の向上について理解する。
		看護援助論	看護理論の臨床場面での実際の応用について考える際には、看護実践の基盤となる援助的人間関係形成の理論と技術について学習する。
		基礎看護技術Ⅰ	人間の基本的欲求の充足を基盤とした日常生活行動への援助を目的に、科学的根拠に基づいた基本的生活援助技術を、講義・演習を通して修得する。具体的には患者の安全、安楽、自立を考慮した日常生活への援助、その人らしく生活を送るための援助の必要性を踏まえて生活環境の調整技術、活動と休息への援助、バイタルサインの測定技術、清潔の援助、排泄の援助、食生活の援助技術などを修得する。
		基礎看護技術Ⅱ	人間の基本的欲求の充足を基盤とした日常生活行動への援助を目的に、何らかの健康問題をもつ人の治療過程を支える看護師の役割を理解する。そして、ケアの安全性・安楽性・倫理性について学び、科学的根拠に基づいた基本的援助技術を、講義・演習を通して修得する。
		看護実践方法論	この授業科目は、意図的な看護実践とは何かを問い、かつクリティカルに物事を捉え、対人関係スキル及び基本的看護技術を活用した計画的な看護実践の必要性と看護の科学性について学習する。

科目区分		科目名	授業の内容
専門分野Ⅰ	基礎看護	フィジカルアセスメント	看護実践の基礎である観察技術や測定技術、コミュニケーション技術（他の科目の応用）を用いて対象の健康状態を把握し、アセスメント結果から正常及び正常からの逸脱を判断できる知識、技術について理解する。内容としては、看護におけるアセスメントの意味、観察技術の意味、対象の全人的理解と倫理的配慮、アセスメント結果を看護過程に関連付けるための学習をする。
		基礎看護実習Ⅰ	看護の実践現場において、看護を必要としている人々の様子や、医療従事者の働きを観察し、どのような支援が行なわれているのか具体的な事実を通して理解する。
		基礎看護実習Ⅱ	健康障害を持つ対象と援助的関係を築き、日常生活援助技術を用いて障害の状況に応じた看護を展開する。対象の全体像を捉えながらアセスメントを行い、看護計画を立案する。計画に基づいて看護を実践し、評価・修正することを学習する。
	成人看護	成人看護学概論	ライフサイクルにおける成人期の特徴を理解するとともに、成人期の対象を取り巻く社会環境、文化的背景、家族形態や機能、保健医療システムなどから、成人期の患者と家族に起こりやすい健康上の問題を包括的に理解する。さらに、発達課題や生活経験の蓄積という視点から健康上の問題に対する成人特有の反応を理解し、成人期にある人と家族に対する看護とその方法について学ぶ。
		成人看護学方法論Ⅰ	急激に健康状態が変化する状況（急性期）にある対象の特徴、疾病や治療、クリティカルケア、周手術期看護について学習し、急性期にある人とその家族に対する看護の展開と看護実践に必要な専門的知識と技術を習得する。また、病院前（プレホスピタル）、救急室、手術室、ICU/CCUなど様々な場における急性期看護の特徴を理解する。さらに、急性期医療に関わる医療チームメンバーとそれぞれの役割と連携について学ぶ。
		成人看護学方法論Ⅱ	慢性的な経過をたどり、生涯にわたり生活のコントロールを必要とする対象とその家族への看護を学習する。慢性疾患の特徴や、病気の認知と需要、セルフケア能力を高める援助、家族へのサポートについて理解し、様々な機能障害の特徴を踏まえ、対象と家族にとって最適な健康状態になるような看護実践に必要な理論、方法を習得する。
		リハビリテーション看護論	リハビリテーションの理念や主要概念の理解をもとに、リハビリテーションを必要とする患者・家族の生活再建に向けた看護の役割・機能について学習し、合わせて他職種との連携・協働の在り方について理解を深める。さらに、運動・認知機能障害の回復に向けたリハビリテーション看護実践方法について学ぶ。
成人看護実習Ⅰ	健康障害により、手術やクリティカルケアを必要とする成人期の患者・家族を対象に、身体的・心理的・社会的状況をアセスメントし、生命の危機的状況下（急性期）に最適な看護を実践するための能力および態度を養う。		
成人看護実習Ⅱ	慢性的な経過をたどる健康障害により、生涯にわたり生活のコントロールを必要とする成人期の患者・家族を対象に、セルフケア能力の維持・向上を目指した最適な看護を実践するための能力および態度を養う。		

科目区分	科目名	授業の内容
専門教育科目 専門分野Ⅱ 高齢者看護	母性看護	母性看護学の基本概念を理解し、母性（女性）の生涯における性と生殖に関する健康問題を学び、母性看護の役割と重要性について認識を深める。
	母性看護	女性のライフサイクル各期と妊娠・分娩・産褥・新生児期における特徴を包括的に理解し、各期の対象者およびその家族への援助方法を学ぶ。
	母性看護	母性（女性）各期の特徴を理解し、妊娠・分娩・産褥・新生児期にある母子およびその家族に対して、適切な援助を実践する能力を養う。さらに、生命誕生と親となる過程における看護職の役割を学ぶ。
	小児看護	小児看護の対象である子どもの理解をうながすために、子ども観の変遷や子どもの人権と看護子ども医療と倫理などについて学ぶ。また、子どもの成長・発達について、影響因子や成長・発達の評価等を理解し、子どもと家族へのケア及び健康増進のための援助を学習する。
	小児看護	子どもの健康障害を理解し、病気や入院が子どもに与える影響を理解する。小児に特徴的な疾患の病態を理解し、必要な看護について考える。健康障害でさまざまな状況にある子どもと家族への看護アセスメントと、援助の方法及び小児看護に必要な技術を習得する。
	小児看護	成長発達に応じた健康増進のための子どもと家族への援助、生活への援助について実践力を養い、子どもの健康障害及び病気や入院が子どもに与える影響を理解し、健康障害でさまざまな状況にある子どもと家族への実践能力を養う。そのために、保育所、病院での施設実習を行なう。
	高齢者看護	高齢期にある人を身体的・心理的・社会的側面から捉え、生涯発達することを理解し、高齢者看護の特性を学ぶ。内容は、その人らしく尊厳のある生活の保障、高齢期にある人の安全で尊厳ある生活維持への支援、老化がもたらす心身の影響と適応への支援、高齢者の生活にかかわる法律と社会資源、高齢者看護における倫理的課題、高齢者を介護する家族への支援などについて学習する
	高齢者看護	加齢による生活の変化及び特徴的に見られる健康問題を持つ老年期にある人に対して、生活の質の維持・向上を目指した看護を学ぶ。地域の高齢者への支援体制と看護の役割、治療を受けるリハビリテーション過程にある高齢者への援助、生活機能障害のある高齢者の生活適応への支援、家族への支援について教授する。加齢に伴う生理的・心理的・社会的変化の把握の査定、高齢者の健康障害、健康生活上の課題の把握と支援、高齢者の事故防止のための行動と予防支援、安静に伴って起こりやすい合併症予防等を教授する。
	高齢者看護	高齢期にある人を身体的、心理・精神的、社会的側面から捉え、生涯発達することを理解し、加齢による生活の変化及び特徴的に見られる健康問題をもつ高齢期にある人に対して、生活の質の維持・向上を目指した看護実践能力を養う。具体的には、[高齢者看護学概論][高齢者看護学方法論]の理解を基盤として、受け持ち患者の看護過程の展開をし、高齢者の生活適応、健康維持・回復への支援及び家族への支援を実践する基礎的能力を養う。

科目区分		科目名	授業の内容	
専門教育科目	専門分野Ⅱ 精神看護	精神看護学概論	精神保健および精神看護学の基盤となる人間のこころの発達と健康について、生物学的なアプローチ・心理社会的なアプローチにより理解する。また、精神障害者が生きてきた歴史を振り返り人権擁護の観点から現在の精神保健・医療・福祉制度について学ぶ。	
		精神看護方法論	精神看護学の基本概念を理解し、生物・心理・社会的視点から精神的健康問題を抱えた人の捉え方を学ぶ。また、精神的健康問題がもたらす生活への影響や対象者の抱える苦悩を理解し、その健康とセルフケアの回復・維持・向上を図るための看護の方法及び必要な技術について学ぶ。	
		精神看護実習	精神的健康問題を抱える人とその家族の特性を理解し、その健康と生活の回復・維持・向上を図るための看護援助に必要な知識・技術及び「共に生きる専門職」としての態度を習得する。合わせて、地域生活移行支援及び在宅生活支援における看護職の役割とチームによる支援方法を学ぶ。	
	総合看護	在宅看護	在宅ケア論	在宅で長期にわたってヘルスケアとサービスを必要とする対象とその家族に対し、在宅ケアにおける看護過程、基礎技術および症状の疾患に対する援助技術について学習する。また、健康障害をもつ人々やその家族に対し、保健・医療・福祉システムがどのように連携し、援助しているかを学び、その活用方法、サポートシステム、ケアマネジメントなど在宅ケアシステムについて学ぶ。
			在宅ケア実習	この授業科目は、在宅で長期にわたってヘルスケアとサービスを必要とするクライアントと、その家族に対応した看護技術の実践能力を養う。具体的には「在宅ケア論」での学習に基づいて、療養生活に必要な基本的な生活援助や医療処置への継続看護や、家族介護者の健康支援方法、感染予防、診療に伴う看護技術を習得する。
		総合看護	ケアリング文化実習	沖縄の歴史や文化を継承しながら、長寿を全うしている地域の高齢者や障害者などと触れあい、彼らの人生や生活、地域の絆やケアリング文化を学ぶことを目的とする。
			感染看護	この授業科目は、クライアントや家族の感染予防と教育、施設や在宅における感染管理に必要な諸概念とシステム、さらに具体的な感染予防や感染管理の基本的な方法を学ぶ。
			看護研究方法	看護に必要な看護学や関連諸科学の文献を検索し、それらを批判的に読み、活用することができる基礎的能力を養う。また、看護における研究の必要性や研究のプロセスを理解し、研究疑問から研究目的の記述、研究デザインの選択、看護研究の計画が立案できる基礎的能力を養う。
			卒業研究	看護研究方法で学んだ基礎知識をもとに、関心ある課題について研究を計画し、論文としてまとめるまでの過程を通して、看護職に必要な研究能力を養う。具体的には、課題の選択と文献検討、研究デザインの決定、計画書の作成、データの収集と分析、研究結果のまとめ、論文の作成・発表を行う。
	総合看護	沖縄の文化と看護	沖縄の歴史に由来する伝統的な芸術文化（言語 芸能 伝統工芸 文学など）の理論を学びながら、学内外で実際に見学したり、演習したりして、看護への適用を考察する基礎的な能力を養う。	
		ターミナルケア論	終末期にある人をホリスティックに理解し、必要なアセスメント能力及び援助能力を養う。内容としては、身体症状のアセスメントと苦痛を緩和する症状コントロール、スピリチュアルケア、家族・遺族の支援について学習する。	

科目区分	科目名	授業の内容
専門教育科目 統合分野 総合看護	看護実践と理論	看護理論の構成概念、ならびに看護理論家の理論構成について学習する。看護理論の歴史的発展について概説する。看護理論の基礎的理解を通して、理論と看護実践との関わりに対する理解を深める。
	看護管理	看護管理の目的を理解し、人々の健康向上のために、経営資源を系統的に適用するプロセスについて理解する。看護管理に関する法的基盤、専門職集団としての役割と機能、看護の需要と供給、卒後教育、組織構造と運営、組織行動の原理原則、リーダーシップ、医療・看護事故の予防等の課題について学習する。
	看護政策論	近年の我が国における保健医療制度改革がすすむ中、看護職者が自らの能力を十分に発揮し、社会に貢献するためには、現行の保健・医療福祉の政策決定システムを理解し、制度的改革等を含めた政策上の問題を抽出し、国内外や沖縄県の看護政策における問題解決のための提言をしていくことの重要性を理解する。
	家族看護学	今日の家族が生きる状況を理解し、家族機能について概観する。主要な家族看護理論及び概念枠組みについて学び、それらの主要な概念を活用して家族への理解を深めながら、看護論理をふまえた家族のヘルスアセスメント及び看護支援・援助について学習する。各発達段階に応じた家族看護について学ぶ。
	看護教育論	看護学教育の定義及び看護教育制度についての基礎的な理解を深め、諸外国の看護教育制度との比較から、我が国の看護教育制度の特徴と課題について学習する。また、看護教育を具体化するための教育課程及び看護教師論についても学習する。
	国際看護学Ⅰ	異文化看護の概念枠組みを応用した国際的な看護援助や国際協力活動の事例について学びながら、人々の生活に深く根ざしている文化背景を理解し、民族としての尊厳を守る援助について考える。
	国際看護学Ⅱ	2年次の授業で学んだ国際看護に関する基礎的な知識をふまえて、実際の事例や現場をとおして、人々の生活に深く根ざしている文化背景を考慮した具体的な看護活動の展開方法について学ぶ。また、国内・国外の多文化共生社会において、マイノリティー・マジョリティーにかかわらず民族としての尊厳を守るための看護職の役割や重要性について理解する。
	災害看護論	災害医療の基礎知識として、災害サイクルに応じた活動現場別の看護、被災者特性に応じた看護の展開、災害とところのケア、災害看護活動の課題、具体的な発災直後から出動までの看護展開、近年の世界における災害と国際救援活動の現状などの講義を行い、災害発生時のトリアージの演習などをおこなう。
	島嶼・過疎地看護論	この科目は、離島・過疎地域の住民が生涯にわたり住み慣れた地域社会で安心して生活できるよう、保健医療福祉を統合した保健活動を展開する地域づくりや地域ケアシステムを構築できる能力を養う。モデル地域において実践的能力を高める学習を展開する。
	総合実習	1年から4年までに修得した看護の実践能力の評価を踏まえ、自己の課題を明らかにし、保健・医療・福祉の包括的な視点から看護の総合的な実践能力を高めることを目的とする。さらに、学生自らが実習を企画し実施し評価し、将来の自らの看護の発展と方向性を探求する。

科目区分	科目名	授業の内容
専門教育科目 保健師教育分野 公衆衛生看護	公衆衛生看護学概論	<p>地域で生活する人々の健康問題解決や健康課題の組織的な解決に関する公衆衛生看護の基礎的な考え方について学習する。内容としては、公衆衛生看護の歴史、公衆衛生看護活動の理念・目的、基本概念とその活用、活動領域と対象、活動方法、社会環境の変化と健康課題について学ぶ。</p>
	公衆衛生看護活動論	<p>生涯にわたる各段階（発達段階）、健康レベルに応じた個人・家族、集団の生活と健康状態、人々が主体的に問題解決できるよう地域特性と法的根拠を踏まえた保健福祉活動について学習する。内容としては、母子保健福祉活動、成人保健福祉活動、高齢者保健福祉活動、歯科保健活動、障害者（児）保健福祉活動、精神保健福祉活動、難病保健福祉活動、感染症保健福祉活動、児童虐待予防福祉活動について学ぶ。</p>
	公衆衛生看護方法論Ⅰ	<p>地域に顕在あるいは潜在している健康問題の把握方法、地域診断に基づく活動計画と評価、さらに、住民ニーズの施策化など、組織的に解決する基礎的な知識と技術を学ぶ。内容としては、地域特性、地域集団の特徴の把握、活動計画および事業計画の策定、計画の推進（進行管理、計画の調整）、自治体（保健所、市町村）における計画策定・施策化と予算、などについて学ぶ。</p>
	公衆衛生看護方法論Ⅱ	<p>地域の人々が、自ら健康問題を意識し、主体的に健康の保持増進を図り、健康問題を解決できるよう地域特性を踏まえた適切な接近技法・技術を選択し、介入することのできる基礎的な能力を養う。 内容としては、保健指導、家庭訪問、健康教育、健康診査、健康相談、地区組織の育成、地域ケアシステムづくり、社会資源の開発について学ぶ。</p>
	公衆衛生看護管理論	<p>行政看護領域における公衆衛生看護管理の概念、機能と特徴、健康危機管理とその意義、健康危機管理体制について学習する。内容としては、公衆衛生看護管理の概念、保健師の実践活動の過程と管理機能、保健師の看護管理機能の特徴、即ち事例管理・地区管理・事業管理・組織運営管理・予算管理・人材育成・人事管理・情報管理・健康危機管理について学ぶ。</p>
	公衆衛生看護実習Ⅰ	<p>この実習では、保健所、総合健診センター、事業所（小規模を含む）の保健活動について、それぞれの理念と目的、役割と機能、制度とシステム、健康増進、健康課題、展開方法について学習する。実習内容としては、福祉保健所の役割と機能、総合健診センターの役割と機能、事業所（小規模を含む）における健康管理と看護職の役割について臨地見学実習する。</p>
	公衆衛生看護実習Ⅱ	<p>既習の公衆衛生看護実習Ⅰを基盤にして福祉保健所の機能と役割の理解のもとに、福祉保健所における管轄地域の人々の健康の特徴と保健福祉における公衆衛生看護活動と地域保健管理の実践について実習する。実習内容としては、福祉保健所における公衆衛生看護活動および公衆衛生看護管理実習として事例管理、地区管理、事業管理、組織運営管理、予算管理、人材育成、人事管理、情報管理、健康危機管理について実践的に実習する。</p>
公衆衛生看護実習Ⅲ	<p>公衆衛生看護実習ⅠおよびⅡと関連させて、地域の人々の健康の特徴と市町村または市町村保健センター、地域包括支援センターの役割と機能について学ぶ。さらに、公衆衛生看護活動および保健師の活動の過程と管理機能の実践について実習する。また、市町村内にある小学校を訪問して、学校における健康管理の特徴と養護教諭の機能と役割について見学学習する。実習内容としては、地域診断、健康教育、家庭訪問、健康相談、地区組織活動、地域ケア体制、社会資源の活用方法、地域支援事業（包括支援センター）、学校について実践的に実習する。</p>	

